

横浜市新型コロナウイルス対策本部
対策本部会議

令和4年11月17日（木）

15:30 ~ 16:30

市庁舎10階 本部会議室

1. 感染状況等

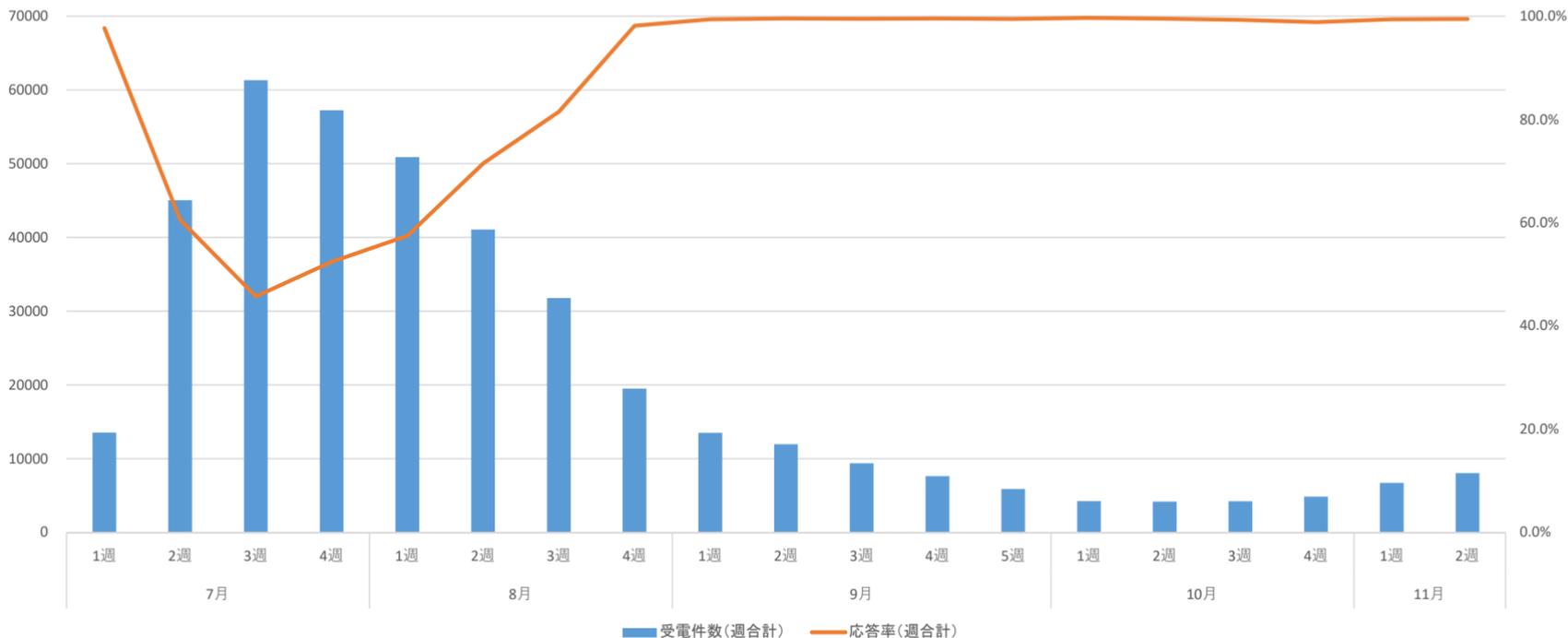
- (1) 第6波以降の感染発生等の状況
- (2) コールセンターの状況
- (3) 病床使用状況
- (4) 1週間あたりの救急搬送の推移
- (5) 市立学校の陽性者数・学級閉鎖数の推移
- (6) 保育所等の陽性者数・休園数の推移
- (7) インフルエンザ発生状況（市内）
- (8) オミクロン株対応ワクチン接種実績 累積接種数

1 -(1) 第6波以降の感染発生等の状況



1 -(2) コールセンターの状況

コールセンターの受電件数と応答率（週合計）



1 -(3) 病床使用状況

(1) 陽性患者用確保病床数

	11月1日時点
最大確保病床数 (うち、重症用病床)	1,004床 (97床)

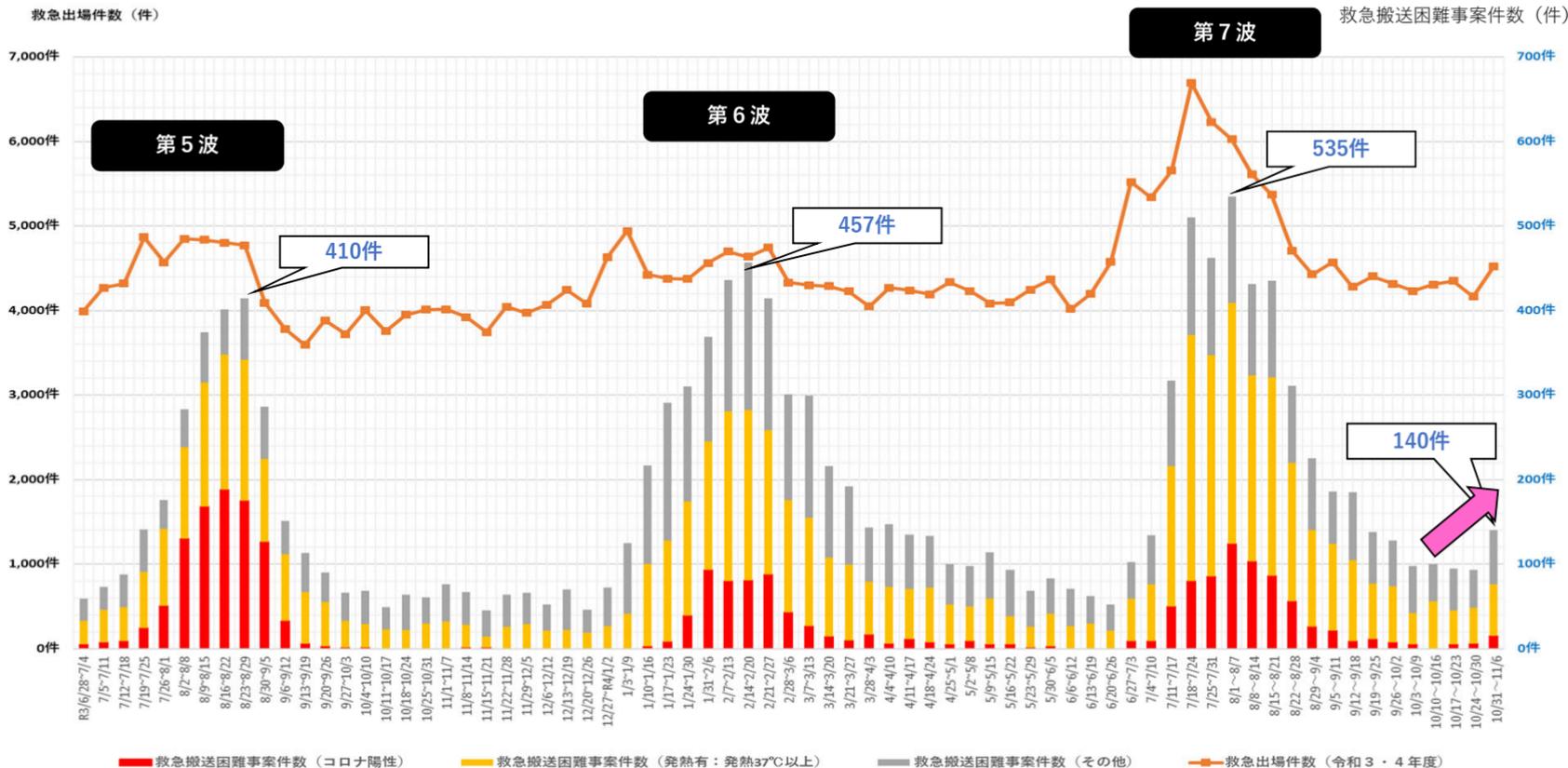
(2) 病床使用状況

	8月9日※	11月16日
病床使用数 (使用率)	752床 (82.5%)	322床 (32.1%)
うち重症用病床数 (使用率)	24床 (23.8%)	10床 (10.3%)

※第7波の中で最も病床使用率が高かった日
(参考) 8月9日時点の最大確保病床数 911床 (うち重症用101床)

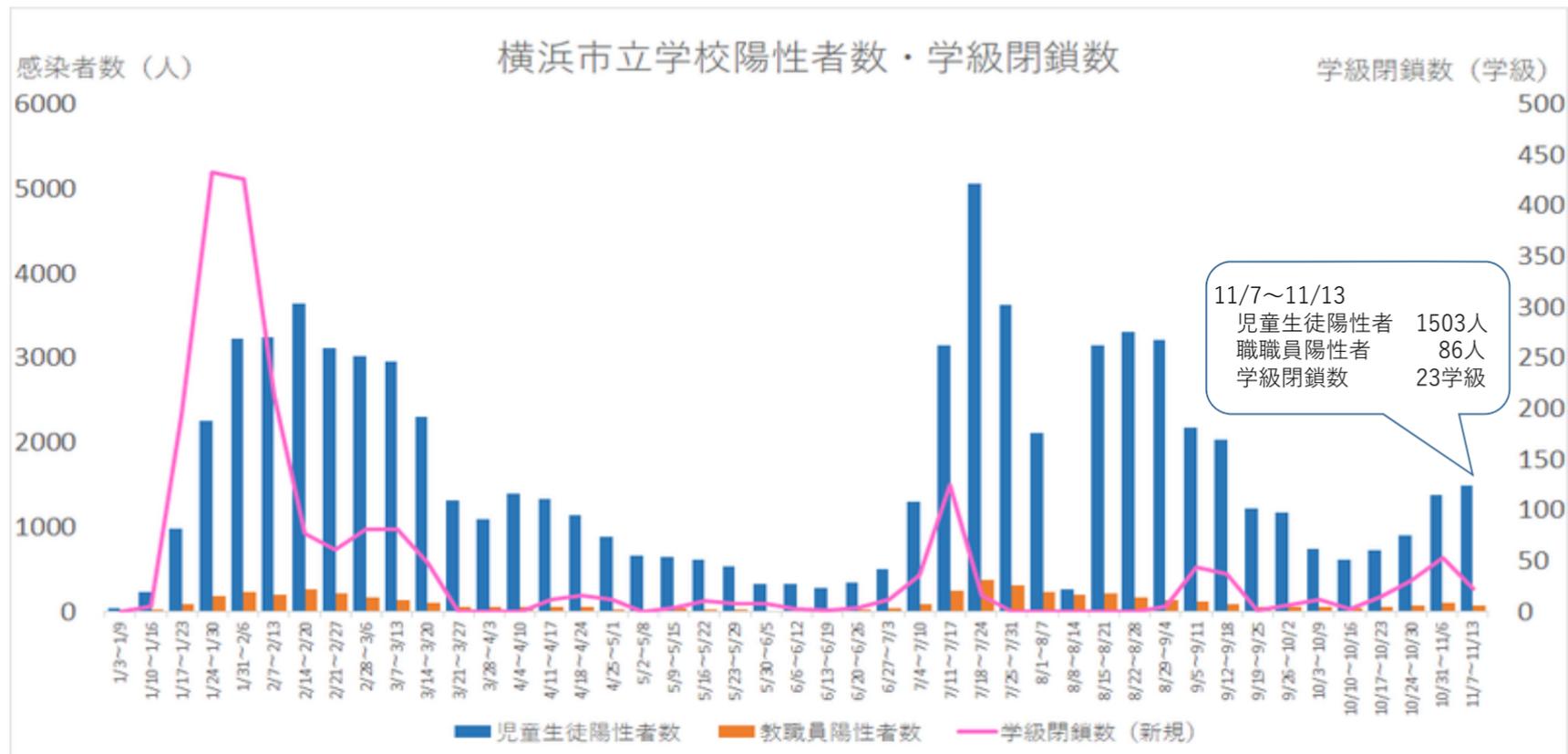
1-(4) 1週間あたりの救急搬送の推移

(令和4年11月8日現在速報値)



1 -(5) 市立学校の陽性者数・学級閉鎖数の推移

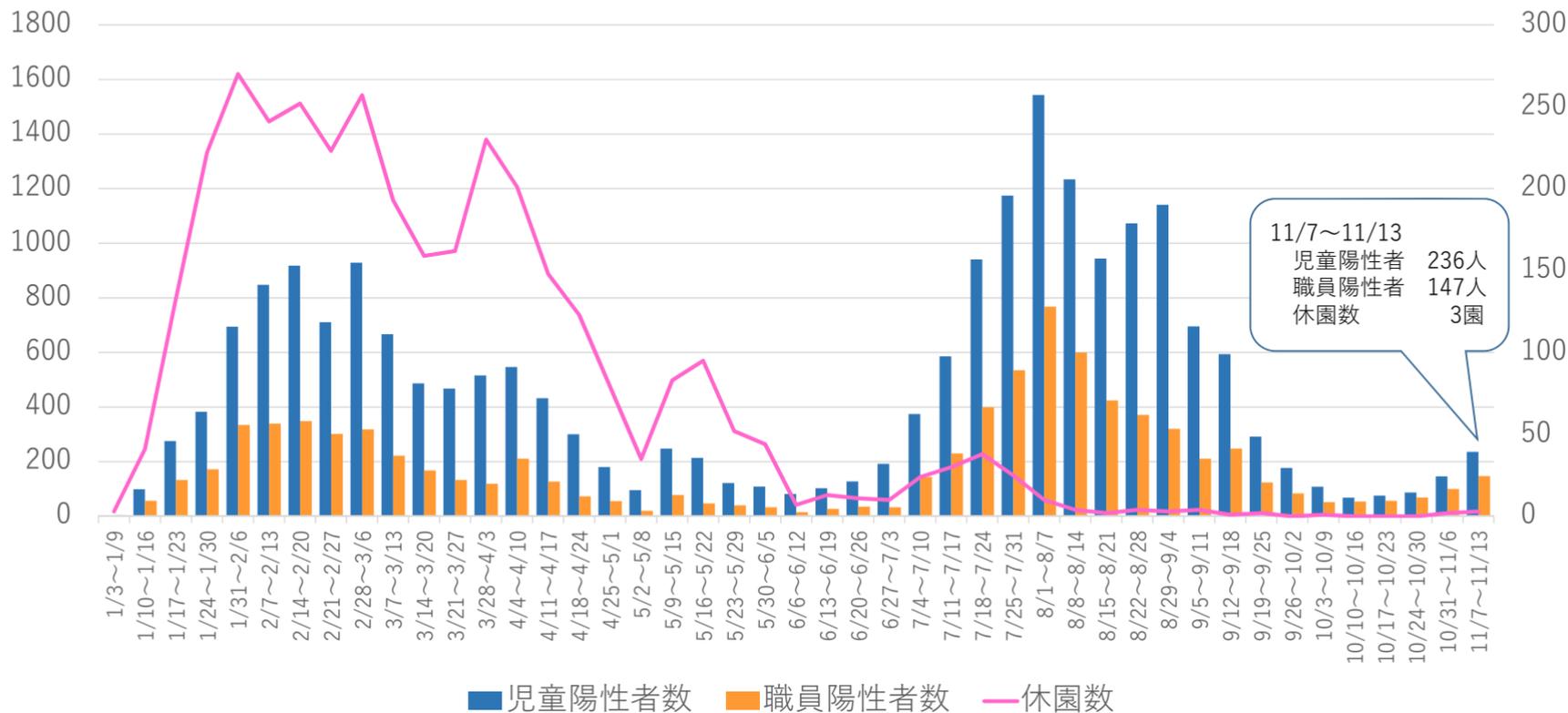
2022年11月13日時点



1-(6) 保育所等の陽性者数・休園数の推移

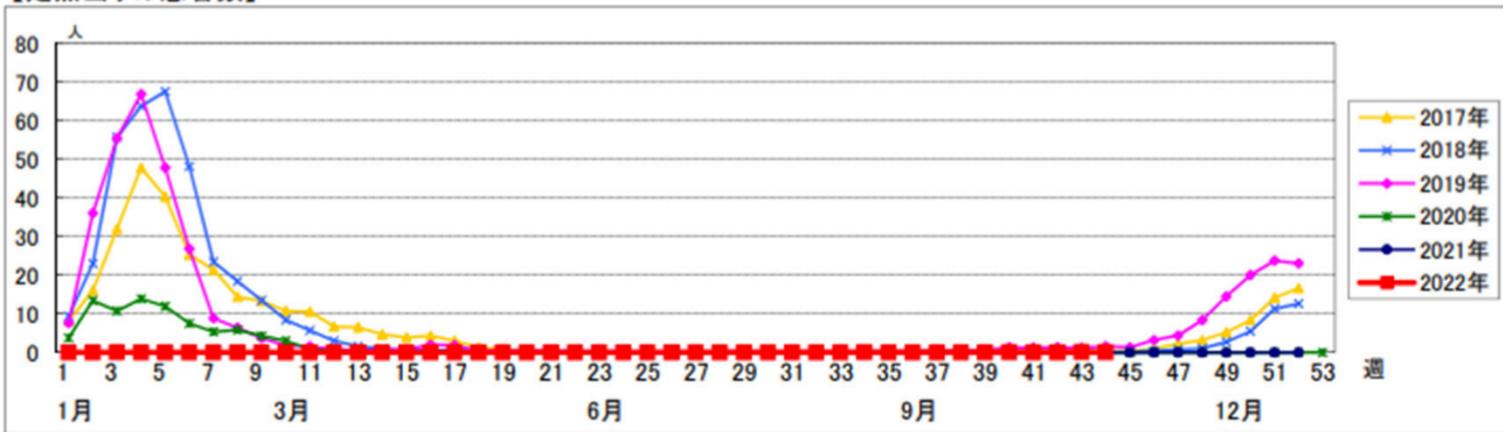
2022年11月13日時点

保育所等における感染発生等の状況



1-(7) インフルエンザ発生状況（市内）

【定点当りの患者数】



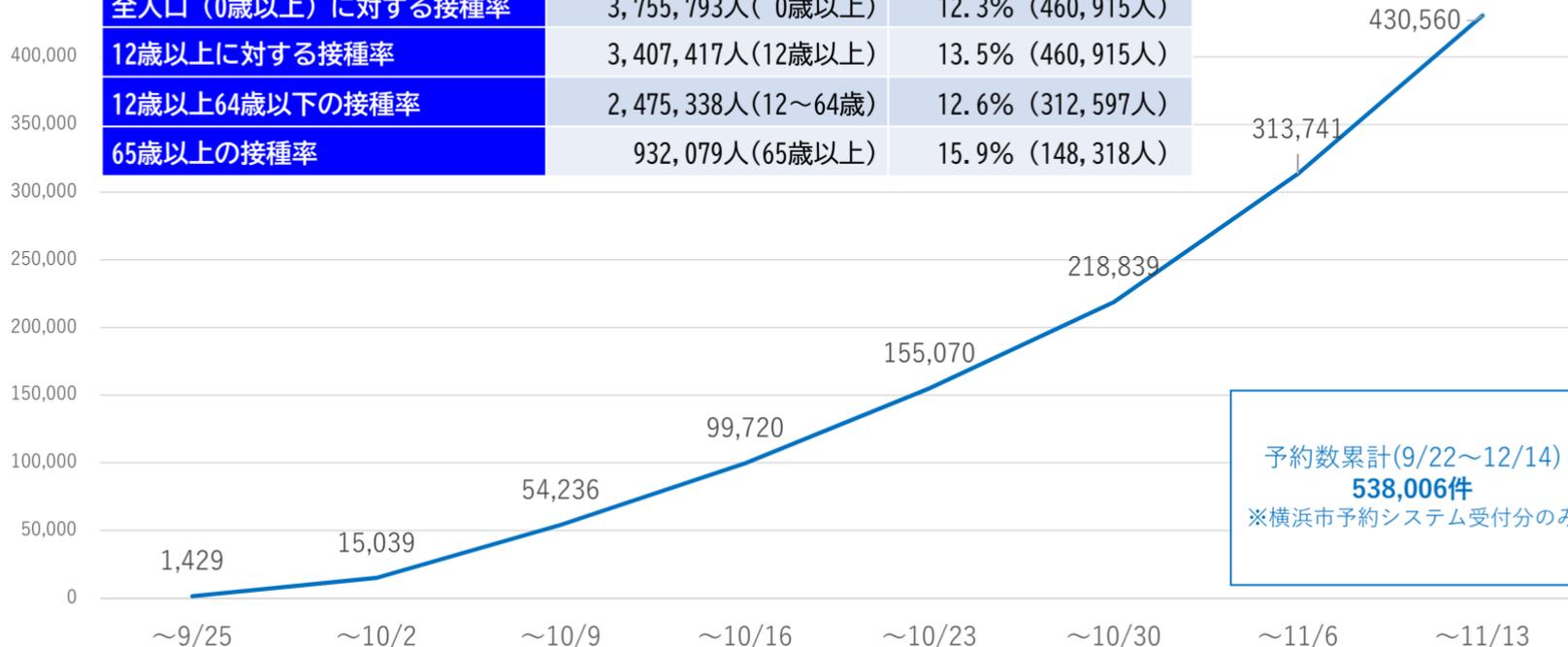
週数		合計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
第40週	罹患数	6		1				1		1			1			1	1					
	定点当り	0.05		0.01				0.01		0.01			0.01			0.01	0.01					
第41週	罹患数	2						1										1				
	定点当り	0.01						0.01										0.01				
第42週	罹患数	0																				
	定点当り	0																				
第43週	罹患数	12			1		4	2		2			1	2								
	定点当り	0.09			0.01		0.03	0.01		0.01			0.01	0.01								
第44週	罹患数	6							1	1	2								2			
	定点当り	0.05							0.01	0.01	0.02								0.02			

1-(8) オミクロン株対応ワクチン接種実績 累積接種数

横浜市の接種率（接種対象者：12歳以上） 令和4年11月15日時点

11/15時点
460,915人

項目	分母	接種率（接種者数）
全人口（0歳以上）に対する接種率	3,755,793人（0歳以上）	12.3%（460,915人）
12歳以上に対する接種率	3,407,417人（12歳以上）	13.5%（460,915人）
12歳以上64歳以下の接種率	2,475,338人（12～64歳）	12.6%（312,597人）
65歳以上の接種率	932,079人（65歳以上）	15.9%（148,318人）



予約数累計(9/22～12/14)
538,006件
※横浜市予約システム受付分のみ

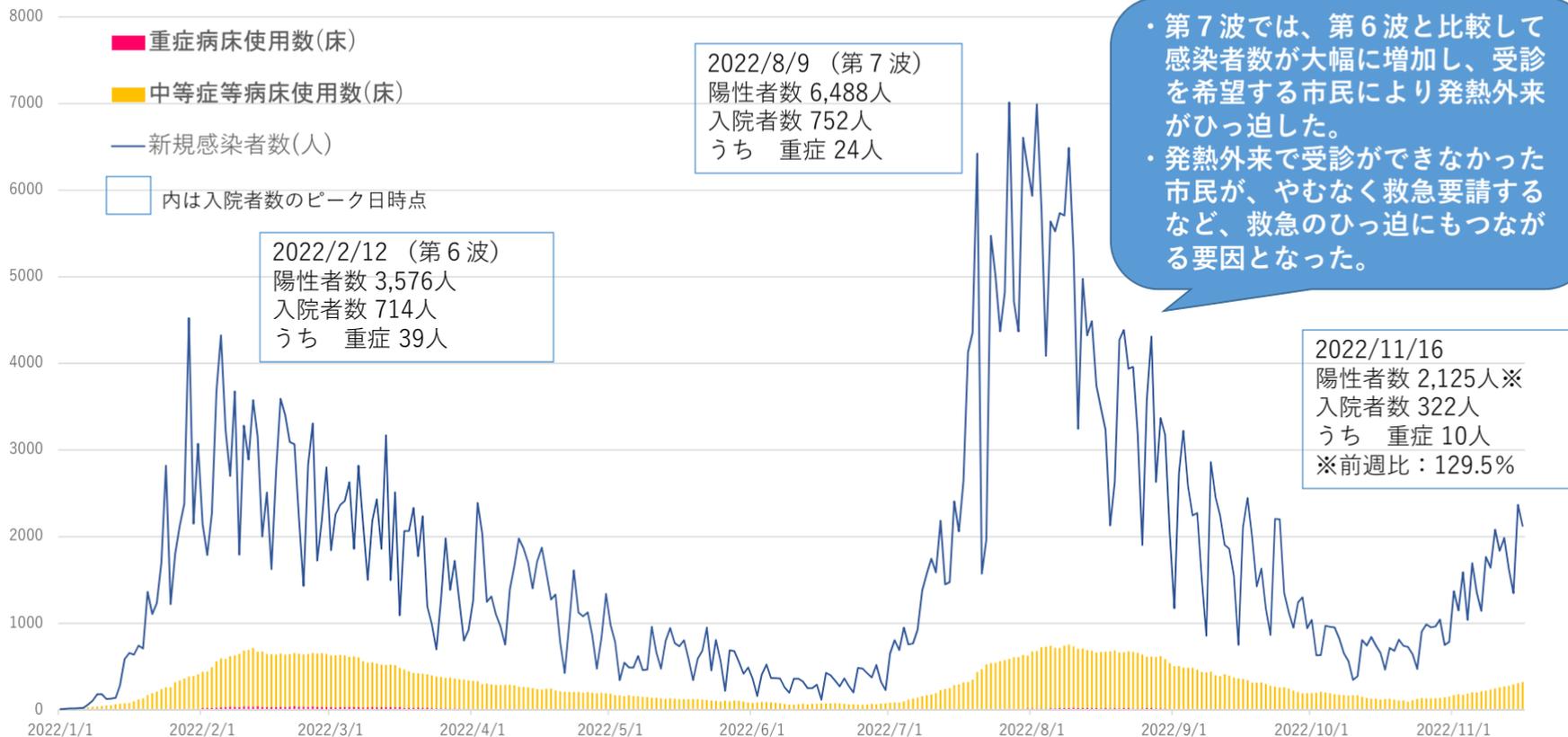
※ ・令和4年11月15日時点のVRS登録データを基に計算

2. 第7波における課題

- (1) 第6波以降の感染発生等の状況【再掲】
- (2) コールセンターの状況【再掲】
- (3) 病床使用状況【再掲】
- (4) 救急出動件数・救急搬送困難事案件数（年齢区分別）

2-(1) 第6波以降の感染発生等の状況

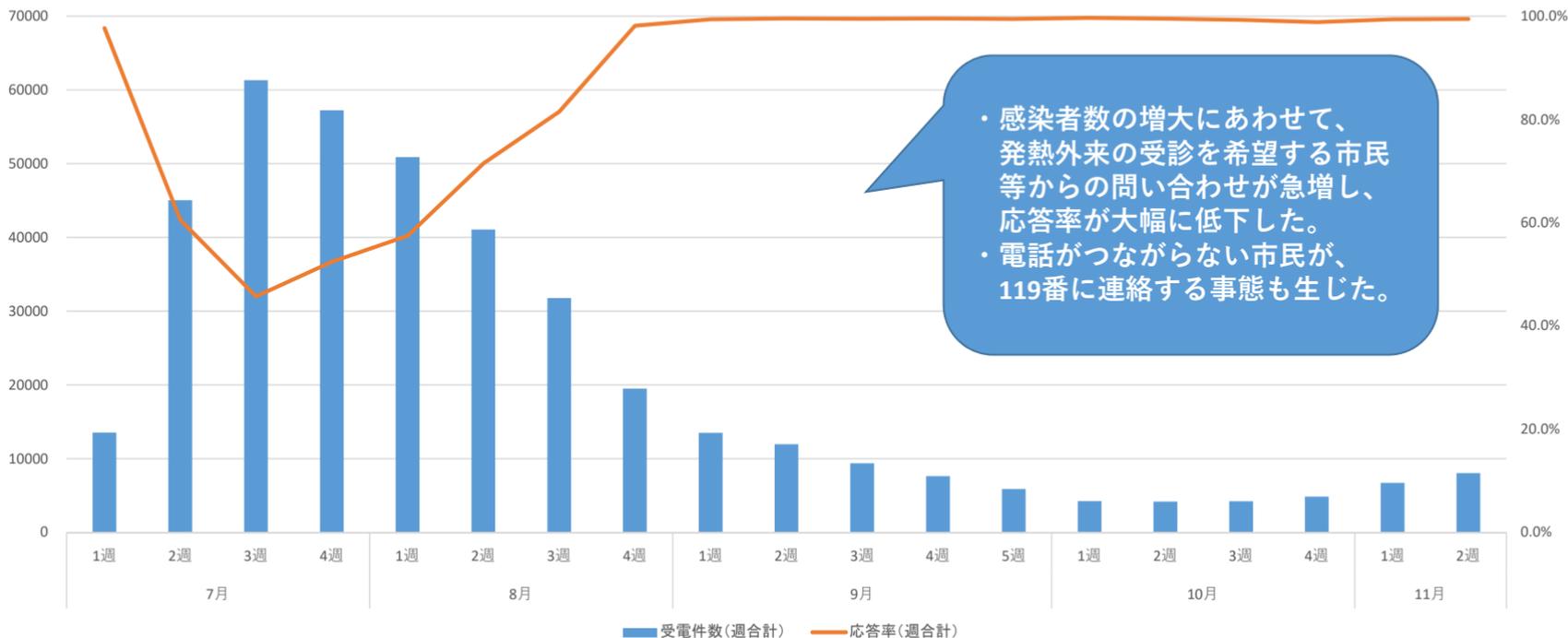
【再掲】



2-(2) コールセンターの状況

【再掲】

コールセンターの受電件数と応答率（週合計）



- ・感染者数の増大にあわせて、発熱外来の受診を希望する市民等からの問い合わせが急増し、応答率が大幅に低下した。
- ・電話が繋がらない市民が、119番に連絡する事態も生じた。

2 -(3) 病床使用状況

【再掲】

(1) 陽性患者用確保病床数

	11月1日時点
最大確保病床数 (うち、重症用病床)	1,004床 (97床)

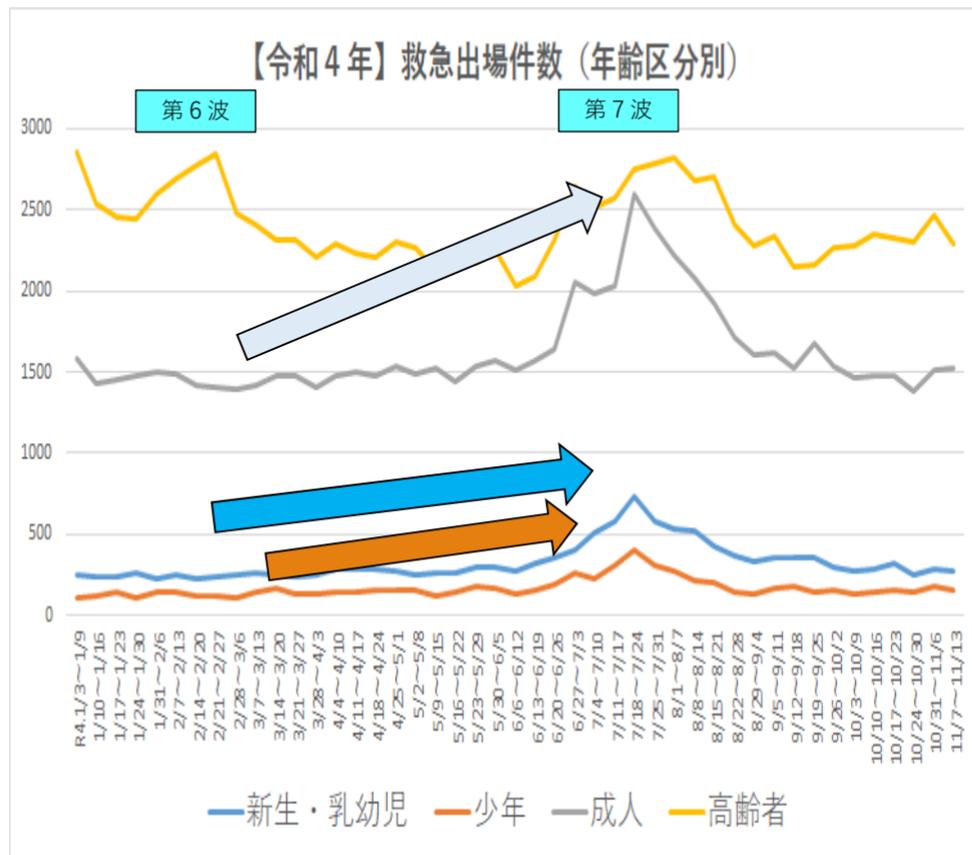
(2) 病床使用状況

	8月9日※	11月16日
病床使用数 (使用率)	752床 (82.5%)	322床 (32.1%)
うち重症用病床数 (使用率)	24床 (23.8%)	10床 (10.3%)

※第7波の中で最も病床使用率が高かった日
(参考) 8月9日時点の最大確保病床数 911床 (うち重症用101床)

- ・第7波では、病床使用率が最大80%を超えたことや軽症者の救急搬送が増えたことで、救急患者の受け入れに支障をきたした。救急の搬送困難事案の増大にもつながった。
- ・入院加療後もADLの低下などにより退院できない高齢患者が発生し、新たな患者の受け入れの支障となった。

2-(4) 救急出場件数（年齢区分別）



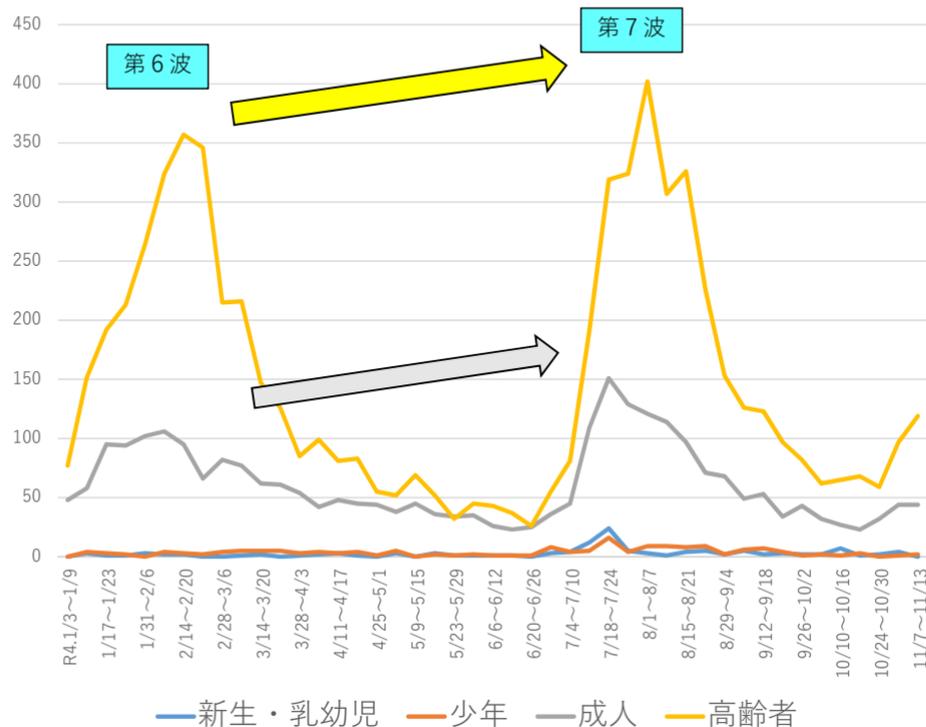
・ 救急出場件数の増加により、即時対応できず、出場までに時間を要するケースが発生した。

【第6波と第7波の比較】

- ・ 高齢者（65歳～）はあまり変わらず
- ・ 成人（18～64歳）が大幅に増加したほか、新生・乳幼児（0～6歳）や少年（7～17歳）も増加

2-(4) 救急搬送困難事案件数（年齢区分別）

【令和4年】救急搬送困難事案件数（年齢区分別）

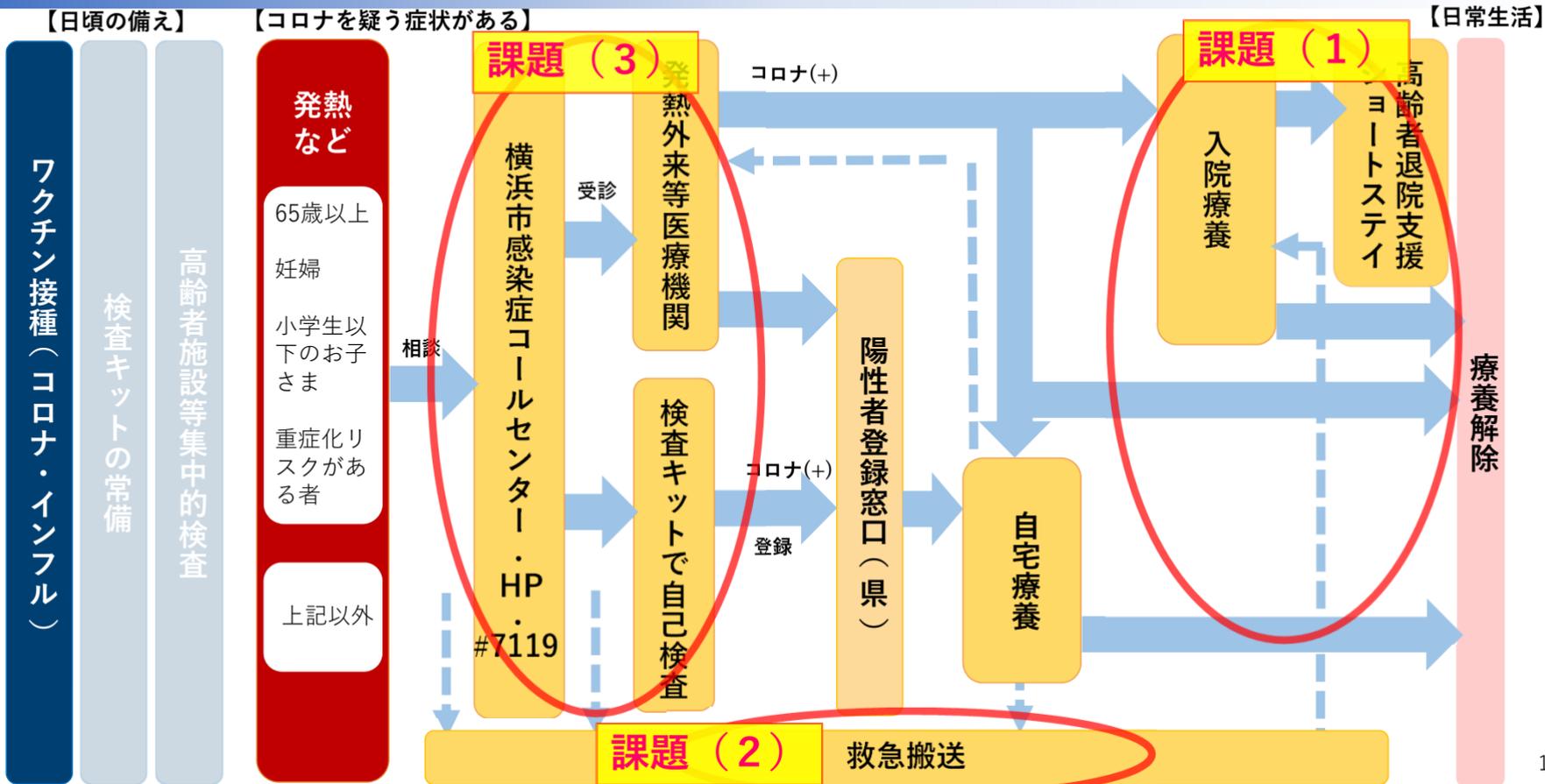


・受け入れ病院側のひっ迫も発生していた結果、搬送先病院を決定するまでに長時間を要し、結果的に、次の出場への支障が出るケースが発生した。

【第6波と第7波における共通の状況】

・高齢者（65歳～）と成人（18～64歳）が増加傾向にあり、特に高齢者の増加が顕著

2. 第7波における課題 (新型コロナウイルス感染患者の療養の流れ)



2. 第7波における課題

第7波の課題を踏まえた検討

【第7波の課題】 = 軽症者対応

- 過去最多の感染者（**軽症者**）が生じたことで、
 - **救急がひっ迫** （軽症者からの要請による出動件数の急増）
 - **発熱外来がひっ迫** （検査を受けたくても受けられない）

第7波が減少傾向に入った9月上旬から、**感染の再拡大**や**季節性インフルエンザとの同時流行**により、**7波をさらに超える感染者が生じる**ことを見据え、関係局長級と定期的（概ね週1回）に検討を重ねてきた。

3. 第8波に向けた対策のポイント

I 救急のひっ迫対策

(1)陽性高齢者の受入れ

- ①陽性高齢者ショートステイ
- ②退院支援ショートステイ
- ③病床の拡充

(2)救急体制の充実

- ①救急隊の増隊

II 発熱外来のひっ迫対策

(3)発熱患者の療養体制

- ①相談体制の充実
- ②休日急患診療所・医療機関の診療体制の確保
- ③抗原検査キットの常備・活用の推進

日頃の備え

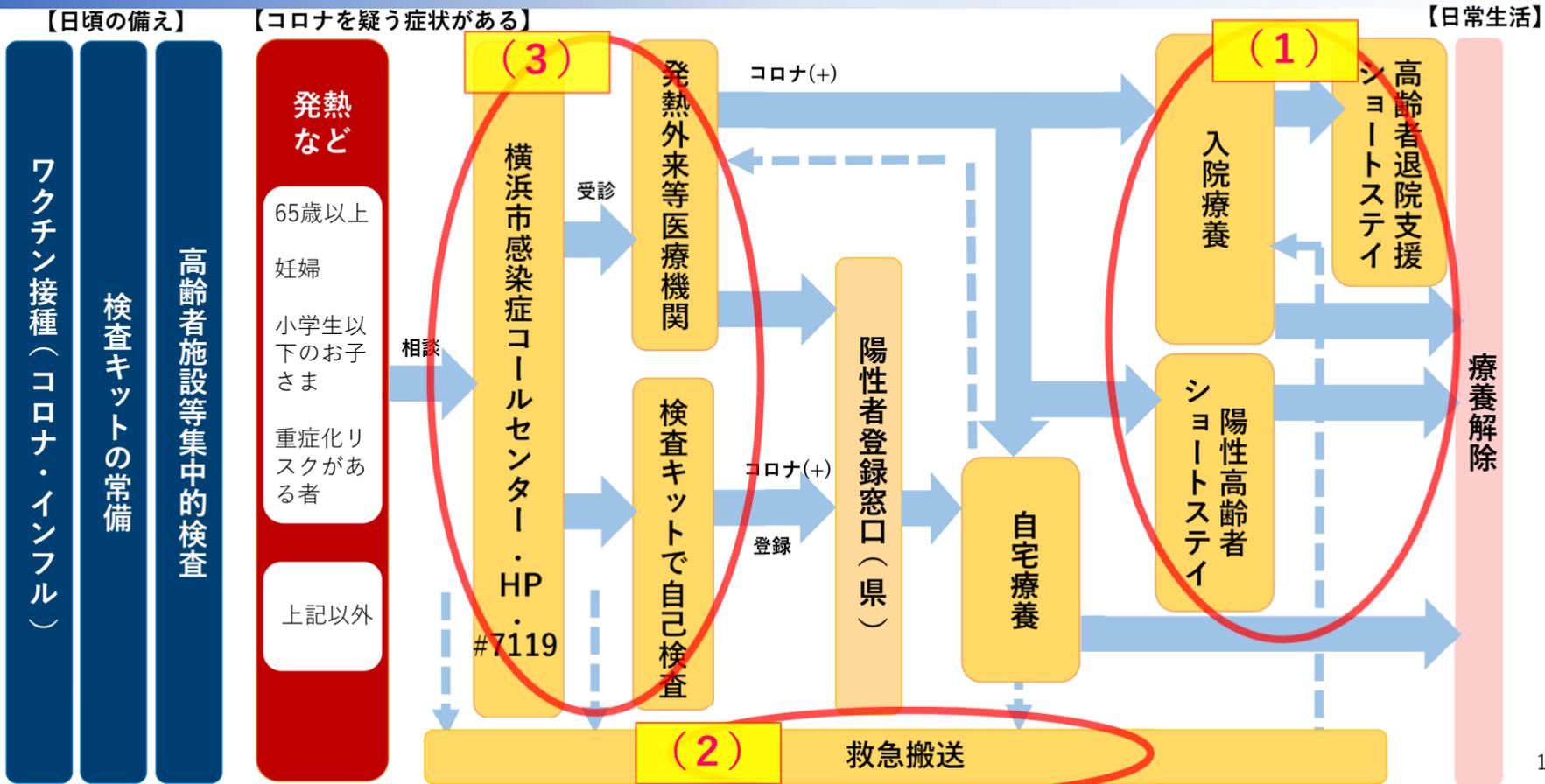
(1)市民の皆様へのお願い

- ①ワクチンの早期接種
- ②抗原検査キットの常備

(2)高齢者施設等への対策

- ①高齢者施設等への集中的検査
(II-(3)-③抗原検査キットの活用 再掲)

3. 第8波に向けた対策のポイント（新型コロナウイルス感染患者の療養の流れ）



I 救急のひっ迫対策

自主療養の難しい高齢者の療養支援、病院からの退院支援を行うことで、病院のベッドをより多くの救急患者に対応できるようにします

① 陽性高齢者ショートステイ事業

入院は要しないが、介護や生活上の理由から自宅療養が困難な陽性高齢者を高齢者施設等で受け入れ、必要なケアを提供する

実施施設について→**高齢者施設等**で調整中
* 2施設 (18人分)

② 退院支援ショートステイ

入院治療を終えたが、自宅での生活にスムーズに移行できないコロナ治癒者を高齢者施設で受け入れることにより、病床の確保につなげる

使用するベッドについて

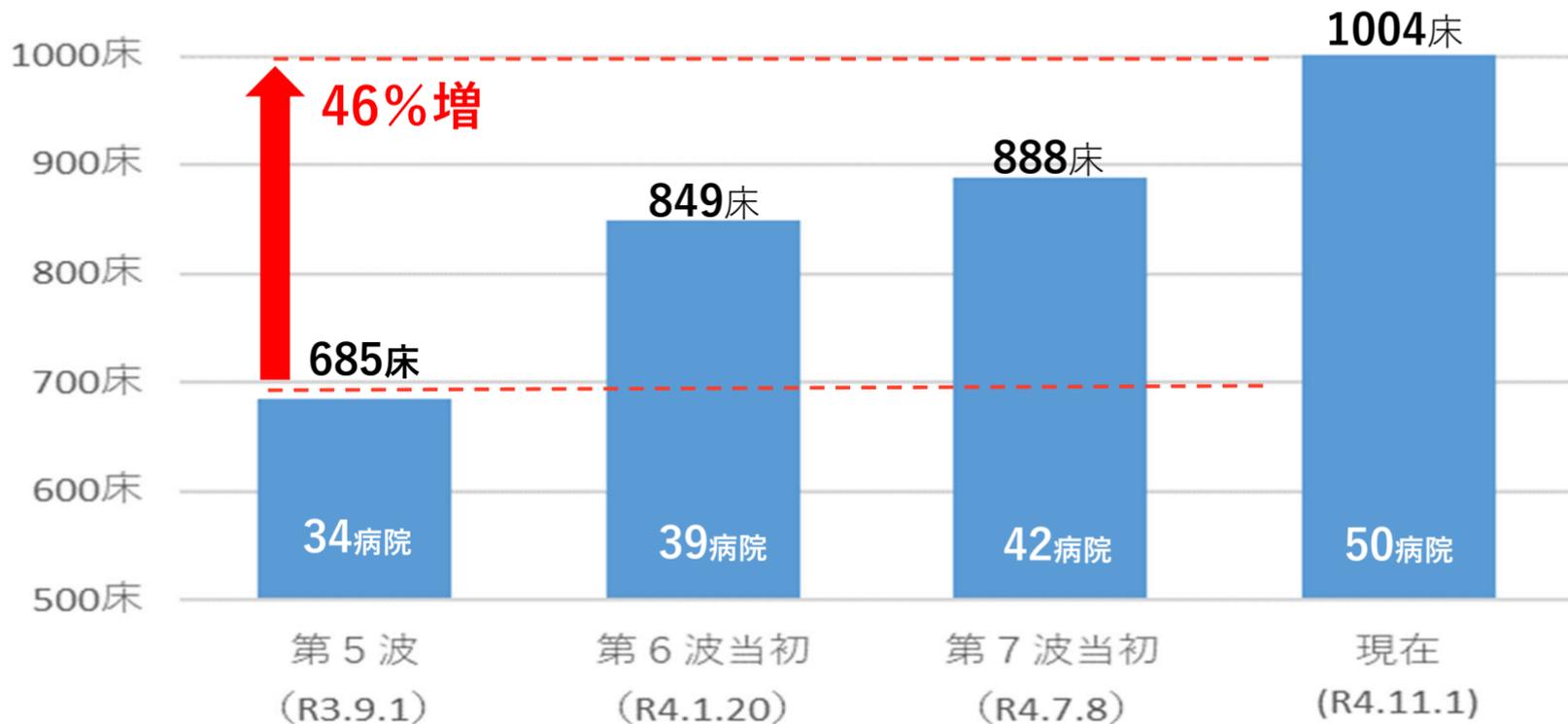
→ **23施設・36ベッドに拡大**

事業の運用について

→ **すみやかな入所調整に向け、運用方法を改善**

救急のひっ迫対策

病床の拡充



・県立4病院の確保病床（合計91床）を除く

I 救急のひっ迫対策

救急隊の増隊

- ・ 救急自動車の納車時期を一部前倒し（2月⇒11月）
- ・ 救急隊の増隊（83隊⇒84隊⇒96隊）

時期	取組内容
10月	<ul style="list-style-type: none">・ 北山田救急隊の増隊 救急隊 83隊 ⇒ 84隊 に増隊
12月上旬	<ul style="list-style-type: none">・ 救急自動車の納車時期を一部前倒し  <p>納車時期の前倒しにより</p> <ul style="list-style-type: none">・ 12隊程度の増強救急隊の編成が可能 救急隊 84隊 ⇒ 最大96隊 に増強

II 発熱外来のひっ迫対策

相談体制の充実

市民からの相談などを受け止め、適切な療養方法をご案内し、不安の解消に努めます

第8波に向けたコールセンターの対策

- ・ 電話回線数の更なる増設 140回線 → **180回線**（11月末）
- ・ オペレーター配置数の計画的増員
→ 回線数を最大活用できる人数配置（随時）

(参考)令和4年度 回線の最低応答率

100回線(41.0%) → 140回線(61.1%) → **180回線**

感染症対策のホームページを改善

- ・ 療養の方法や発熱外来医療機関の検索など必要な情報へのアクセス改善
- ・ 軽症者には自宅療養をご案内

II 発熱外来のひっ迫対策

18区の休日急患診療所の診療体制の強化

※市医師会と調整中

(1) 令和4年12月1日(日)～

	通常(コロナ前)
医師	2名(内科1・小児科1)
看護師	2名(内科1・小児科1)
事務	2名



	R4.12/1～・R5.1/4～
医師	3名
看護師	4名
事務	4名

(2) 年末年始 (R4.12/30～R5.1/3)

	R4.12/1～・R5.1/4～
医師	3名
看護師	4名
事務	4名



	年末年始の追加対応 (R4.12/30～R5.1/3)
医師	4名
看護師	5名
事務	5名

II 発熱外来のひっ迫対策

医療機関の診療体制の確保

■ 概要

年末年始における発熱患者等の診療を行う医療機関等の体制を確保します。
(12月29日～1月3日の間)

[参考]

直近の実績（診療体制を確保した医療機関数）

令和3年度	年末年始	278 機関
令和4年度	G W	155 機関

※県と調整中

※関連する補正予算の成立が前提となります

II 発熱外来のひっ迫対策

抗原検査キットの常備・活用の推進

検査キット等をご家庭に常備いただくようお願いします

※薬剤師会とキット常備に向けた連携、小学校・保育所等を通じた啓発などを実施

【医療機関への支援】

- 今夏と同様、**発熱外来の受診希望者**を対象に**配付**
(卸業者を通じたキット確保)

【ハイリスク施設・こども関連施設等への支援】

- 高齢者・障害者・保護施設の従事者**を対象に**配付**
- 保育所の保育士等**を対象に**配付**
- 小学校の教職員等**を対象に**配付**
- 高齢者施設の入所者**を対象に**デュアルキットを確保**

※「新規事業」は関連する補正予算の成立が前提となります